

鍼灸 News Letter

しんきゅう ニュースレター

No. 6



身近で優しい医療として、社会での新たな役割をめざす鍼灸業界の取り組み・現状

Topic

「膝関節痛」と鍼灸

- ◇変形性膝関節症に対する鍼治療の有効性について
〔明治国際医療大学教授鍼灸学部健康・予防鍼灸学教室 矢野忠先生〕
- ◇整形外科医からみた鍼灸治療の可能性
〔埼玉医科大学かわごえクリニック整形外科・スポーツ医学 立花陽明先生〕
- ◇変形性膝関節症における鍼灸の健康保険の取り扱い状況について
〔(社)日本鍼灸師会常任理事・保険局長 大口俊徳先生〕

Salon

ココロとカラダはつながっている だから 20 年以上、統合医療を実践しています
～医療法人社団洋光会 いずみ鍼灸治療室～

News & Information

1. (社)東洋療法学校協会 第 31 回学術大会を開催
「東洋医療の真髄 ～文化としての医療～」
2. (社)日本鍼灸師会 第 5 回全国大会を開催
「鍼灸だから治せる ～21 世紀の医療と鍼灸師～」
3. 日本伝統鍼灸学会 第 37 回学術大会を開催
「日本伝統鍼灸継承者育成への提言」
4. 第 8 回全鍼師会大会・第 35 回日本東洋医学系物理療法学会学術大会 共同開催

鍼灸医療推進研究会概要



鍼灸医療推進研究会[(社)日本鍼灸師会、(社)全日本鍼灸マッサージ師会、(社)全日本鍼灸学会、(社)東洋療法学校協会]では、東洋医学の中核を成す鍼灸について、より多くの方々にご理解いただくためのコミュニケーション活動を推進しています。

メディアの皆様のご要望に応じて、健康・美容に関わる様々なテーマについて詳しい治療院・鍼灸師、医師の方々をご紹介します。また、鍼灸について馴染みのないメディアの皆様には、体験についてもご案内いたします。下記までお問い合わせください。

鍼灸医療推進研究会 <http://www.shinkyu-net.jp>

◎広報事務局◎

ジャパン PR ビジョン 担当:大木・柳町

東京都中央区銀座 5-10-6 御幸ビル Tel (03)3574-6591 Fax (03)-3574-0056 ohki@jprv.co.jp

膝関節痛と鍼灸

一般的に、鍼灸治療の主要な対象と言え、肩こり・腰痛・関節痛です。肩こり・腰痛に対しては鍼灸治療が有効であると知られてきており、またそれを支持する科学的根拠もあります。一方、膝関節痛（変形性膝関節症）については、鍼灸治療は“効く”とされながらも、その科学的根拠がないとされてきました。しかし、この指摘は間違いで、実は鍼灸治療が変形性膝関節症に有効であるとする科学的根拠はあり、その有効性は世界各国の研究者たちによる臨床研究で証明されています。

今号では「膝関節痛と鍼灸」をテーマに取り上げ、膝関節痛の代表的な病気である変形性膝関節症に対する鍼灸治療の有効性や、変形性膝関節症における鍼灸の健康保険の取り扱い状況についてご紹介していきます。

変形性膝関節症に対する鍼灸治療の有効性について

変形性膝関節症（英単語「Osteoarthritis」（骨肉節炎）から。以下、膝OA）は、関節軟骨の退行性変性を原因とする疾患で、膝関節痛の代表的な病気です。本症は、加齢による膝関節の関節軟骨の変性によるものですから、65歳以降の高齢者に多く発症します。しかも膝OAでは、関節軟骨の加齢による変化に加えて体重などの持続的負担がかかると、軟骨変性に伴う代謝異常を引き起こします。それは骨の破壊性変化と骨の修復性変化が同時に生じるというものです。このような変化が関節機能の低下をまねき、周辺部にも影響を及ぼし、骨形状の変化や関節包の炎症をきたします。そのために症状として、膝関節の痛みが現れ、X線上では関節裂隙の狭小化や骨棘形成、軟骨下骨の硬化像の変化などがみられるようになります。

肥満体型の人に多い膝OA

高齢で膝の痛みを訴え、正座ができない、膝が伸びないなどの症状を訴える場合は、まず変形性膝関節症を疑います。しかも膝OAの原因である関節軟骨の退行性病変は、主に体重負荷によって起こることから肥満体型の人に多くみられます。

もし、関節部に明瞭な発赤・熱感・腫脹（腫れ）がみられるようであれば、他の病気（化膿性感染性膝関節炎、関節リウマチ、急性の前膝蓋骨滑液包炎、化膿性滑液包炎など）を考えます。そのような場合は、専門医の診察と治療が必要です。

膝OAには鍼灸治療が有効であることが立証

世界各国で膝OAに対する鍼灸治療の臨床研究が行われています。それらの結果、膝OAには鍼灸治療は有効であるとし、ドイツやイギリスなどでは保険適用にもなっています。以下に膝OAに対する世界の代表的な鍼灸治療の臨床研究を紹介し、鍼灸治療の有効性について述べます。

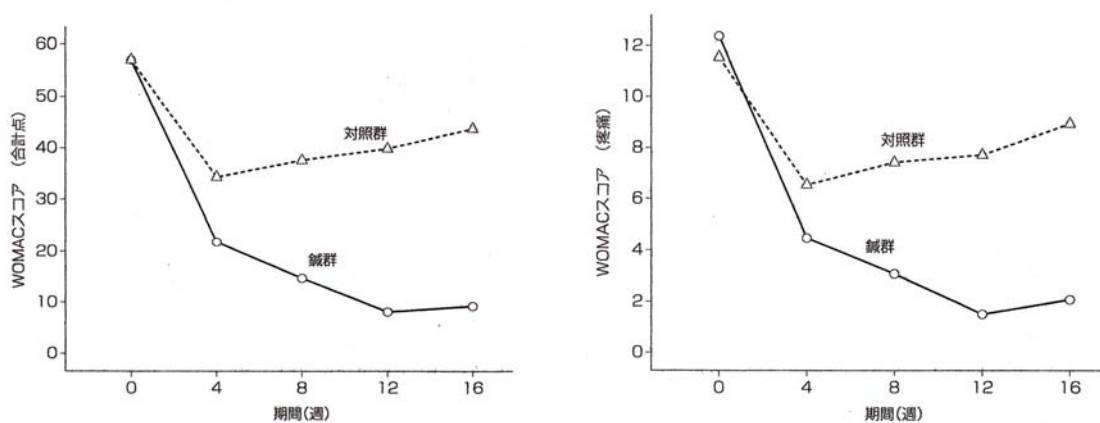
イギリスのAdrian White氏は、膝OAに対する鍼灸治療の有用性・有効性について「薬物療法との比較において鍼灸治療は安全で有効な治療である可能性が高い」と報告しています。膝OAの薬物療法といえば、NSAIDs（非ステロイド系消炎鎮痛薬）などが使用されています。

しかし、長期効果や副作用などの点から、多くの医師から薬物処方にためらいがあるとされ、その点鍼治療は安全であり、有効な治療であると報告しています。

アメリカのEric Manheimer氏は、570名の膝OA患者を対象に、鍼群とシャム鍼（偽鍼）群、教育訓練群（自己管理プログラムによる教育指導）の3群に割り付け、治療効果の判定にはWOMAC（※膝OAの効果を判定する評価票）を、全身状態については6分間歩行距離、QOLの評価にはSF-36（心身の健康状態を包括的に評価するもの）を用いて判定しました。その結果、鍼群はシャム鍼群や教育訓練群の対照群に比して統計的に有意に改善されたとし、鍼治療は膝OAの補助療法として機能改善や疼痛軽減に有効であると述べています。

また、スペインのJorge Vas氏も鍼治療は、膝OAに有効であることを示しました。膝OA患者97名を対象に、鍼群（鍼＋ジフロフェナク〈鎮痛薬・ボルタレンのこと〉）と対照群（プラセボ鍼＋ジフロフェナク）にランダムに割り付け、WOMACとVAS（痛みの程度を測る評価法）を用いて検討しました。その結果、図1に示すように鍼群は対照群に比して疼痛の軽減とジフロフェナクの服用量が有意に減少したと示し、鍼治療は膝OAに有効であることを示しました。

（図1）



※WOMACは、膝OAの臨床症状の評価に使用される評価票で、疼痛5項目、こわばり2項目、機能17項目から構成されています。点数が大きいくほど悪い状態をしめします。左図は、項目全体の結果を、右図は疼痛の結果を示します。対照群に比して鍼群は低く推移し、鍼治療の効果を示しています。

（『エビデンスに基づく変形性膝関節症の鍼灸医学』42頁より引用）

同様にドイツのWitt CM氏も鍼治療は、膝OAに有効であるとともに医療費の面でも経済的であると述べています。鍼治療のランダム化比較試験（有効性を検証する研究として優れた方法で世界で行われている研究方法）では294名の患者を対象に、鍼治療群、微鍼治療群（ツボでなところにごく浅い鍼を刺す治療）、無治療群の3群にランダムに割り付け、WOMACを用いて検討したところ、鍼治療は微鍼治療および無治療群に比して有効であったと述べています。また632名の患者を対象に日常の通常医療（薬物療法など現代医学的な治療）に鍼治療を加える群と鍼治療を加えない群に割り当て、費用対効果分析を行ったところ、通常医療に鍼治療を加えることで、通常医療単独よりも効果があり、鍼治療の追加費用がかかるものの、国際医療経済の基準（漸増費用対効果分析比）によれば、対費用効果は高かったと述べ、通常の医療に鍼を加えることで医療的にも経済的にも有効であることを示しました。

さらにイギリスの Adrian White 氏は、膝 O A に対する鍼治療に関する主要な論文を解析し、鍼治療は有効であるとともに通常医療と比べても優れていると述べています。方法はランダム化比較試験による研究で、効果判定に WOMAC を用いた論文を集めて統合し、メタ分析（13 論文から適する 8 論文を選出し、さらに妥当性のある 6 論文を抽出）により有効性を解析したところ、鍼治療シヤム鍼（偽鍼）よりも効果的であり、その効果は短期的、長期的いずれの場合でも統計的に有意であったとし、また鍼治療は通常医療と比べても優れていることを示しました。

鍼治療は安全である

それでは鍼治療の安全性について、ご紹介しましょう。

日本の山下仁氏は、6 編のランダム化比較試験による論文を対象に分析したところ、膝の腫脹や局所の炎症は鍼治療群よりは対照群（無治療群）で多く発生していたとし、鍼治療によるほとんどの有害事象は軽症で一過性であることが確認できたと述べています。また、イギリスの Adrian White 氏は、イギリスにおける鍼治療の安全性に関する研究について発表し、重篤な事象に当てはまるものはなかったとし、「**鍼は有能な施術者によって行われれば極めて安全な治療である**」と述べています。また、ドイツの Klaus Lined 氏も鍼の安全性について、9,918 名の認定された医師によって 503,397 名の患者（慢性痛）に 400 万回以上の鍼治療を行った結果、重大な副作用として失神などの心血管系 6 例、気胸 3 例、皮膚感染 2 例、重症喘息発作 1 例と重大な有害事象は極めてまれであるとし、鍼治療は安全性が高いことを示しました。

膝 O A には鍼治療、そして運動療法を

膝 O A には鍼治療が有効であることを紹介しましたが、さらに効果を高め、再発予防を図るためには膝の運動療法が大切です。膝 O A では、進行とともに膝関節を伸展させる大腿四頭筋が委縮し、膝伸展力が低下すると、さらに悪化しますので、普段から委縮した大腿四頭筋を鍛えることが大切です。膝の運動療法については、鍼灸師にご相談ください。しっかり運動をして筋力アップし、再発予防につなげましょう。

膝関節痛の代表疾患である膝 O A には鍼治療は、有効であることがわかりいただけたかと思います。膝 O A でお悩みの方は一度近くの鍼灸院にご相談ください。

[明治国際医療大学 鍼灸学部健康・予防鍼灸学教室教授 矢野忠先生]

以上の鍼治療の有効性と安全性に関する紹介は、(社)全日本鍼灸学会主催の国際シンポジウム“International Symposium on Evidence Based Acupuncture”のメインシンポジウムシンポジウム「Evidence of acupuncture on osteoarthritis of the Knee」(2006年11月20日・21日、京都)で行われた発表によります。それらの発表の内容については『エビデンスに基づく変形性膝関節症の鍼灸医学』(社団法人全日本鍼灸学会編、医歯薬出版、2007)に詳細に記載されています。

整形外科医からみた鍼灸治療の可能性

膝関節痛をきたす原因は、成長期ではスポーツ活動に起因した骨軟骨障害や腱および腱附着部の障害、思春期・青年期では同じくスポーツに関連した過労性の障害に加えて半月損傷や靭帯損傷、中高年になると、半月損傷や変形性膝関節症の頻度が増加します。

われわれ整形外科医は、症例に応じて外来で種々の保存的治療^{*}を行います。原疾患によってはどうしても手術以外に治療できないことがあります。外来では、患者の訴える症状、特に除痛を目的とした治療を行う場合、消炎鎮痛剤や温熱・電気治療といった理学療法だけでなく、柔軟性の欠如や筋力の低下があればストレッチングや筋力訓練を指導し、アライメント異常がある場合には適切な装具を処方します。また、症状によってトリガーポイントブロックを行うこともありますし、変形性膝関節症では局所麻酔薬やヒアルロン酸製剤あるいはステロイド剤を関節内に注入します。

前述したスポーツ活動に起因する過労性の疼痛では、筋の過緊張に伴う柔軟性の欠如によって疼痛をきたすことが多く、治療にあたってはストレッチングと筋力訓練が最も重要であると思われませんが、それらに加え鍼灸治療は、症状を寛解するための選択肢の一つと考えられます。中でもジャンパー膝、腸脛靭帯炎あるいは鷲足炎などが鍼治療のよい適応ではないかと思えます。一方、半月損傷や靭帯損傷といった関節内の構造的な破綻をきたしている場合には、それに伴う機械的な症状や関節の不安定性を生じるようになり、鍼治療を含めた保存的治療は疼痛に対する対症療法に過ぎないこともあるので、患者のニーズに合わせて手術的治療を考慮する必要があります。

変形性膝関節症の患者では、疼痛を緩和あるいは取り除きQOLを向上させることが治療の目標となるため種々の保存的治療が試みられますが、大腿四頭筋などの筋力訓練やストレッチングといった運動療法は必ず行います。また関節軟骨の機能低下や磨耗に伴い内側関節裂隙を中心とした疼痛を生じ、さらに膝蓋腱、鷲足あるいは腓腹筋腱などの疼痛を合併することもあります。鍼治療は、特にこのような変形性膝関節症に伴う関節外の疼痛に対してよい適応があると思われ。ただし、われわれ整形外科医が関節内への薬剤の注入療法を厳密な無菌的操作で行っても感染を生じることがあり、関節内への鍼治療に関しては賛同できません。

最近では、変形性関節症に対する鍼治療の大規模調査が行われ、その有用性について科学的に検証した論文が報告されています。膝関節痛をきたす疾患には筋の過緊張や関節拘縮、さらに筋力の低下を伴っていることが多く、治療と再発の予防を含めて柔軟性を改善するためにストレッチングを行い、また大腿四頭筋を中心とした筋力訓練を併用して行うなど留意は必要です。種々の膝関節痛に対して鍼治療は適応があるといえるでしょう。

※保存的治療：手術ではなく関節の負担を軽くして生活しやすくすることを目的とした治療

[埼玉医科大学かわごえクリニック整形外科・スポーツ医学 立花陽明先生]

変形性膝関節症における鍼灸の健康保険の取り扱い状況について

「変形性膝関節症」も保険適応の対象になりうる

鍼灸治療を健康保険（療養費）で受ける場合には、医師による鍼灸施術を認める「同意書」が必要です。適応の病名は「神経痛」「腰痛症」「頸腕症候群」「五十肩」「リウマチ」「頸椎捻挫後遺症」の6疾患とされていますが、その他慢性的な疼痛を主症とする疾患についても、実は保険者の裁量により療養費として支給の対象となっています。そしてここ数年、その他疾患として変形性膝関節症を含む関節症が多く支給されているのが現状です。

健康保険での鍼灸取扱額は230億円(推計)

厚生労働省より、平成19年度の国民医療費が34兆円と発表になりましたが（2009年9月2日発表「平成19年度国民医療費の概況」より）、このうち一般診療医療費は25兆6418億円で、ここに含まれる鍼灸の療養費は僅か230億円（推計）でした。国がこの数字を算出するために毎年10月に保険者に対し「療養費の頻度調査」を行い、年間の鍼灸、マッサージ、柔道整復等の総支給額の推計を割り出す基の数字を調査しています。その調査において国が認めている鍼灸の適応疾患の6病名他、その他の疾患として支給されている変形性膝関節症を含む関節症の支給状況も調査しており、国保・後期高齢者医療においては適応疾患のリウマチ、頸椎捻挫後遺症よりも多く支給されている状況が判りました。そして、昨年10月に行われた平成20年度の「療養費の頻度調査」においても同じような結果が出ています。

厚生労働省老健局老人保健課が主管の「介護予防の推進に向けた運動器疾患対策に関する検討会」が平成19年7月13日に行われました。その中で検討会委員である慶應義塾大学整形外科教授戸山芳昭氏は、高齢者の運動機能の低下の主な要因として腰痛症：3,300万人（推定）、変形性膝関節症：3,000万人（推定）を指摘しています。今後介護予防の推進もこの二つの疾患の疼痛を如何にコントロールしていくかが大きな課題となることでしょう。

全国5万件を超える鍼灸治療院の質の向上を目指して

最近、変形性膝関節症を含む膝関節症が健康保険で年々多く支給されつつあるのもこれらの背景があるからと思われます。

膝関節に関する痛みを抱える高齢者の増加に伴い、安全で安心な鍼灸治療の需要は益々高まることと予測されます。鍼灸の施術所の数は厚生労働省の「平成20年保健・衛生行政業務報告結果の概況」により、鍼灸専門の施術所19,451件（18年比9.3%増）、鍼灸マッサージを行う施術所35,808件（18年比3.7%増）で、併せて55,259件が全国の鍼灸を行う施術所の数ですが、全ての鍼灸院が豊富な経験と良質な技術を有している訳ではありません。

そこで鍼灸医療推進研究会では、多くの鍼灸院が需要に応えられるよう保険適応疾患と変形性膝関節症を含めた疾患の卒前・卒後研修など、各治療院の質の向上を目指す取り組みを実施していきます。

※保険取り扱いについて詳しくは、鍼灸医療推進研究会のホームページ「鍼灸net」（<http://www.shinkyu-net.jp/>）をご覧ください。

〔(社)日本鍼灸師会 常任理事・保険局長／鍼灸医療推進研究会作業部会委員 大口俊徳先生〕

ココロとカラダはつながっている だから 20 年以上、統合医療を実践しています

今回は、西洋医学に東洋医学や心理的なカウンセリングを積極的に取り入れた、統合医療を実践している医療法人社団洋光会の岩泉瑠實子先生を訪ねお話を伺いました。

これまで地域医療の立場でさまざまな症状の患者を診てきました。その中で、“私たちのココロとカラダはつながっているんだ”という思いを背景に、皮膚科・形成外科を主とする「いずみ医院」と連携した中に東洋療法を行う「いずみ鍼灸治療室」と「いずみストレスマネジメントルーム」を立ち上げ、現在まで多くの患者に統合医療を提供しています。

さまざまな症状や気持ちに対応する地域医療

医院にはいろいろな症状を抱えた患者さんがいらっしゃいます。血圧が高い人には降圧剤、痛みが伴えば鎮痛剤、血糖値が高ければ糖尿病の薬といったように、その方の症状に合わせて薬を出します。でもそうしていると身体の中が薬のデパートになってしまうのではないかと、薬を使う方法以外に患者さんをケアする方法はないかと考え 20 年ほど前から取り入れているのが、東洋療法やカウンセリングです。地域医療を担う私たちは、様々な症状を持つ患者さんに、それぞれの症状に合う医療を選んで提供することが役割だと思っています。その中で鍼灸のような東洋療法は多くの患者さんから支持されているんですよ」と岩泉先生は言います。



〔窓からの光が明るいカウンセリングルーム〕

ではどのように東洋療法やカウンセリングが患者さんへのケアに関わっているのでしょうか。例えば腰が痛いと言って病院に来た患者さん。鍼治療を行う中で「何かストレスがあるのではありませんか？」と聞いていくと、「実は会社でうまくいっていない」という声が返ってくる。この精神的な緊張や不安というストレスが、腰の痛みにも関係しているのです。「治療を行う中でカウンセリングマインドを持って患者さんに接し、身体的なケアをすることで、患者さんの精神的な緊張が和らぎ腰の痛みも緩和されていくんです」と岩泉先生。



〔鍼灸治療を行う部屋にはベッドが13台。カーテンの仕切りが用意されています。〕

一方カウンセリングを受けにきた患者さんの場合、本人が気づいていないけれど肩がはっていたり腰が痛かったりと、心理的なものが身体に反映していることが多く、この場合は東洋療法での治療を勧めることもあります。

いずみ医院の東洋療法科のスタッフは、5年間の研修期間の中で産業カウンセラー資格を取得することを応援しています。また院内教育として精神科領域・心理関係の勉強会も行っているのも、常にカウンセリングマインドを持って患者さんに接していけるのです。

「心は心、身体は身体と分けて考えず、入口はどちらからでも、両面からケアすることで患者さんはだいぶ良くなっていくようです。心と身体は繋がっている。心理的な側面からもフィジカルな側面からも治療を提供できることが私たちの統合医療です」

学校・企業でも東洋療法

もともと心理職であった岩泉先生。カウンセリングや精神科領域の現場にいた時、言葉という媒体だけで患者さんを診ていくことに限界を感じていたそうです。「身体という側面からアプローチするような治療はないか?と考えていた時に出会ったのが鍼灸でした。人の心を治療する心理療法と身体を治療する東洋療法を統合すれば、患者さんを心と身体の両方からケアが出来ると思い、鍼灸師の資格を取得しました」



〔お話を伺った岩泉瑠實子先生〕

現在は患者への治療だけでなく、鍼灸師を育てる専門学校の講師、高校と中学のスクールカウンセラーも行っている岩泉先生。スクールカウンセラーを行っている学校でも東洋医学は力を発揮することを実感しているそうです。

「カウンセリングを受ける生徒は不登校や適応障害の悩みを持っていて、不安を抱えて身体が緊張している場合が多いので、近くの鍼灸院を紹介したり、ご家族に灸やマッサージの方法を教えたりさしあげたりします。不登校や適応障害の子供にとって、子どもの身体に直接手を触れるという行為はとても意味があります。心の不安はカウンセリングで多少楽になりますが、身体の緊張は直接手を触れて初めて和らぐんです」

また学校の養護教諭に研修を行うこともあります。「たとえば生理痛を訴える生徒にはお腹を温めるだけでなく、『足三里』に豆や米粒をテープで留めて自分で押す方法や、お茶碗の中にカイロをはって温め、灸がわりに底をツボにあてる方法などを教えます。養護の先生方にとっても評判がよく、取り入れて下さり、保護者に教えて喜ばれているようです」

医院の他、専門学校の講師、スクールカウンセラーと日々ご活躍の岩泉先生に今後についてお伺いしました。

「現代はストレス社会。企業においてもカウンセリングや東洋療法などはとても意味があると思います。これからもカウンセリングができる鍼灸師を育てて、企業に派遣できるようなシステムができるようになったらいいなあと思っています」

【医療法人社団 洋光会 いずみ鍼灸治療室】

住 所: 〒233-0013 神奈川県横浜市港南区丸山台2-41-1
(横浜市営地下鉄 上永谷駅下車 徒歩5分)

電 話: 045-842-2112

診療時間: 午前 9時~12時 / 午後 3時~7時(土曜日は6時まで)

休 日: 木・日・祝日

U R L: <http://izumi-clinic.com>



1. (社)東洋療法学校協会 第31回学術大会開催 「東洋医療の真髄 ～文化としての医療～」

東洋療法学校協会第31回学術大会が、10月8日(木)京都市左京区岡崎公園内にある“みやこめっせ(京都市勧業館)”で開催されました。「東洋医療の真髄 ～文化としての医療～」をメインテーマに掲げた今大会は、特別講演に前日本伝統鍼灸学会会長で弦躰塾塾長の首藤傳明先生による「超旋刺ーその心と技ー」、教育講演に北里大学東洋医学総合研究所部長・小曾戸洋先生の「鍼灸古典とその学び方」、指定演題発表が6題、ポスター発表38題を発表しました。



同学術大会が京都で開催されるのは初めてのことであり、参加予定も約1,800名と、その関心の高さを伺わせていました。主管校として初めて運営をする京都の仏眼鍼灸理療学校では、一年以上前から準備を進め、講演会場である大ホールとポスター発表会場や昼食会場となる小ホールを同じフロアに設営し、その大小のホールを結ぶ広い通路に業者展示会場を設定するなど、合理的で快適な環境づくりに専念してきました。

60名の学生ボランティアスタッフと18名の教職員が、準備万端で当日を迎えようとする中、折悪しくも非常に強い台風18号が日を追うごとに日本上陸を窺い、前日には京都直撃という最悪のコースを辿り始めました。生徒の安全確保のため参加できなくなった学校もありましたが、幸い台風の進路が東に逸れ当日早朝には暴風警報も解除され、前日から京都入りしていた学校や、生徒の安全が確保できた学校からの参集をいただきました。開会式では100名足らずの参加でしたが、首藤先生の特別講演の際には500名近くが席を埋め、非常に熱心に耳を傾けていました。演者と聴衆の一体感が最後まで強く感じられる、非常にまとまりのある大会となりました。最終的には732名が集い、閉会式まで多くの参加者がその閉幕を見届ける盛会となりました。

東洋療法学校協会第31回学術大会実行委員長
仏眼鍼灸理療学校校長 小林 靖弘

2. (社)日本鍼灸師会 第5回全国大会を開催 「鍼灸だから治せる ～21世紀の医療と鍼灸師～」

(社)日本鍼灸師会(会長:相馬悦孝)は、去る10月11日(日)・12日(月・祝)の両日、ホテルメトロポリタンエドモント(東京都千代田区)にて、全国大会を開催し、当日は約1,000名の方に参加いただきました。

開会式の後、福島県立医科大学の理事長兼学長の菊地臣一先生による特別講演「腰痛の病態と治療～新しい概念と戦略～」を皮切りに、教育講演では、「『21世紀の医療と統合医療』～統合医療を担う鍼灸師を考える～」と題し、東京女子医科大学附属青山女性・自然医療研究所自然部門の川嶋朗准教授の講演が行われました。シンポジウムでは、鍼灸師法、鍼灸関係4団体の共同事業である「鍼灸医療推進研究会」からの報告、そして鍼灸師と鍼製造メーカーとのリスクマネジメントなど、3つのテーマについての発表がありました。



その他、美容鍼の講演や医療ジャーナリストを交えて鍼灸受療ケースの提示を行ったワークショップ、介護保険や経営に関する講座に加えて、参加型の鍼灸臨床研修講座や開業鍼灸師による症例報告が18演題行われるなど、法人格を有する唯一の鍼灸専門の業団ならではの多彩な内容でした。

また、本大会開催を担当した(社)東京都鍼灸師会主催の都民公開講座「健康で若く生き生きと～健康で若さを保つ秘訣教えます～」が大会最終プログラムとして開催され、順天堂大学大学院医学研究科加齢制御医学講座の白澤卓二教授による「食事」「運動」「生きがい」の3つのキーワードについてご講演の後、ゲストの倍賞千恵子さんを交えたトークショーが行われました。普段鍼灸にあまり馴染みのない一般の方にも、楽しんでいただける貴重な時間になりました。

2010年は、10月10日(日)・11日(月・祝)の2日間、京都市の京都テルサ(京都府民総合交流プラザ)にて開催予定です。

第5回(社)日本鍼灸師会全国大会事務局長
(社)日本鍼灸師会学術部長／(社)東京都鍼灸師会総務部長
三浦 洋

3. 日本伝統鍼灸学会 第37回学術大会を開催 「日本伝統鍼灸継承者育成への提言」

第37回日本伝統鍼灸学会学術大会が大阪コスモスクエア国際交流会館で開催されました。

日本伝統鍼灸学会(会長:形井秀一 筑波技術大学教授)は東洋医学理論を中心に日本鍼灸を実践・研究する臨床家や研究者が結成した学術団体です。

今大会は10月17日、18日に「日本伝統鍼灸継承者育成への提言」をテーマとし藤本蓮風会頭のもと行われました。

参加者は660名で活発な議論が行われました。テーマシンポジウムでは「日本伝統鍼灸継承者に求められる資質(臨床能力)」について討議されTEBA(traditional Evidence Based Acupuncture)の提言や、古典の理解や技術の方向性などが話し合われました。



また、業界でも著名な臨床家を集めその技術公開が行われ、多くの鍼灸師が興味深く学習しました。鍼灸学校学生を対象にしたセミナーも開催され、多くの若者が伝統鍼灸・日本鍼灸の神髄にふれる機会を得ました。

2日間の会議を通じて日本鍼灸の優秀さや今後の課題が確認され有意義な会議となりました。

森ノ宮医療学園専門学校 校長
鍼灸医療推進研究会作業部会委員
安雲 和四郎

4. 第8回全鍼師会大会・第35回日本東洋医学系物理療法学会学術大会 共同開催

「第8回全鍼師会大会」と「第35回日本東洋医学系物理療法学会学術大会」（以下、日東医学会）が、北海道札幌市のシャトレゼガトーキングダムサッポロを会場に年11月1・2日の日程で共同開催されました。

全鍼師会大会のテーマは「みんなで創ろう 医療も介護も、これからも」、日東医学会のテーマは「鍼灸マッサージと免疫」。全鍼師会及び日東医学会の会員、北海道内の鍼灸専門学校学生、一般道民など合わせておよそ800名が参加しました。



大会第1日目は、医療法人夕張希望の杜理事長村上智彦医師が「住民と共に守る医療」と題して講演され、地域の医療を守るため医療従事者と地域住民とが互いに理解し、協力し合うことの重要性について熱く語られました。

全鍼師会大会では、鍼灸マッサージの健康保険や治療院のリスクマネジメント、鍼灸医療推進研究会・マッサージ等将来研究会の活動報告、スポーツセラピー、無免許無資格問題、治療院経営をテーマに分科会に分かれディスカッションが行われました。

一方、日東医会場では白鳥学会長による基調講演、会員による一般臨床研究発表が行われました。初日最後のプログラムとして、響きの杜クリニック院長西谷雅史医師より「響き合う医療とは」と題し、「真の健康は心と体、心と心、からだと環境すべてが響きあったときに初めて人は健康に生きることができるという理念、この調和こそが医療の基本である」とのご講演をいただきました。

2日目には、介護予防、温泉療養、ジャルアカデミーによる接遇講座などの分科会、さらには長野五輪金メダリスト船木和義選手をパネリストに招き、「北海道におけるウインタースポーツの現状と選手を支える環境」と題したディスカッションが行われました。パネリストからは、少子化によりスポーツ人口が減少する中、選手・トレーナーの立場からできる環境づくりについて様々な提言がなされました。

来年度は石川県金沢市を会場に共同開催の予定です。

(社) 全日本鍼灸マッサージ師会学術局委員
鍼灸医療推進研究会作業部会委員
木村 喜三郎

2009 年 11 月/発行：鍼灸医療推進研究会 <http://www.shinkyu-net.jp>

鍼灸医療推進研究会 概要

鍼灸医療推進研究会は、より質の高い鍼灸医療を人びとに提供すること、また、鍼灸の需要を喚起することで鍼灸に携わる人たちのモチベーションを向上し、さらに社会に貢献することを目的に事業を推進しています。

事業の柱は、研修(=鍼灸師の質の向上を目的とした活動)、研究(=鍼灸が社会に貢献するための研究を推進する活動)、普及啓発(=鍼灸の安全性や有用性についての認知促進を中心としたコミュニケーション活動)の3つを基本にしています。

<鍼灸医療推進研究会 加盟組織>

(社) 日本鍼灸師会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-44-14

Tel (03) 3985-6771 Fax (03) 3985-6622

ホームページアドレス <http://www.harikyuu.or.jp/>

(社) 全日本鍼灸マッサージ師会

〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目 12-17

Tel (03) 3359-6049 Fax (03) 3359-2023

ホームページアドレス <http://www.zensin.or.jp/>

(社) 全日本鍼灸学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-44-14 (日本鍼灸会館内)

Tel (03) 3985-6188 Fax (03) 3985-6135

ホームページアドレス <http://jsam.jp/>

(社) 東洋療法学校協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-12-9 第1長谷川ビル 4F

Tel (03) 3432-0258 Fax (03) 3432-0263

ホームページアドレス <http://www.toyoryoho.or.jp/>